



機構及び事務分掌

平成 28 年 5 月 18 日

文化観光局

あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA

目 次

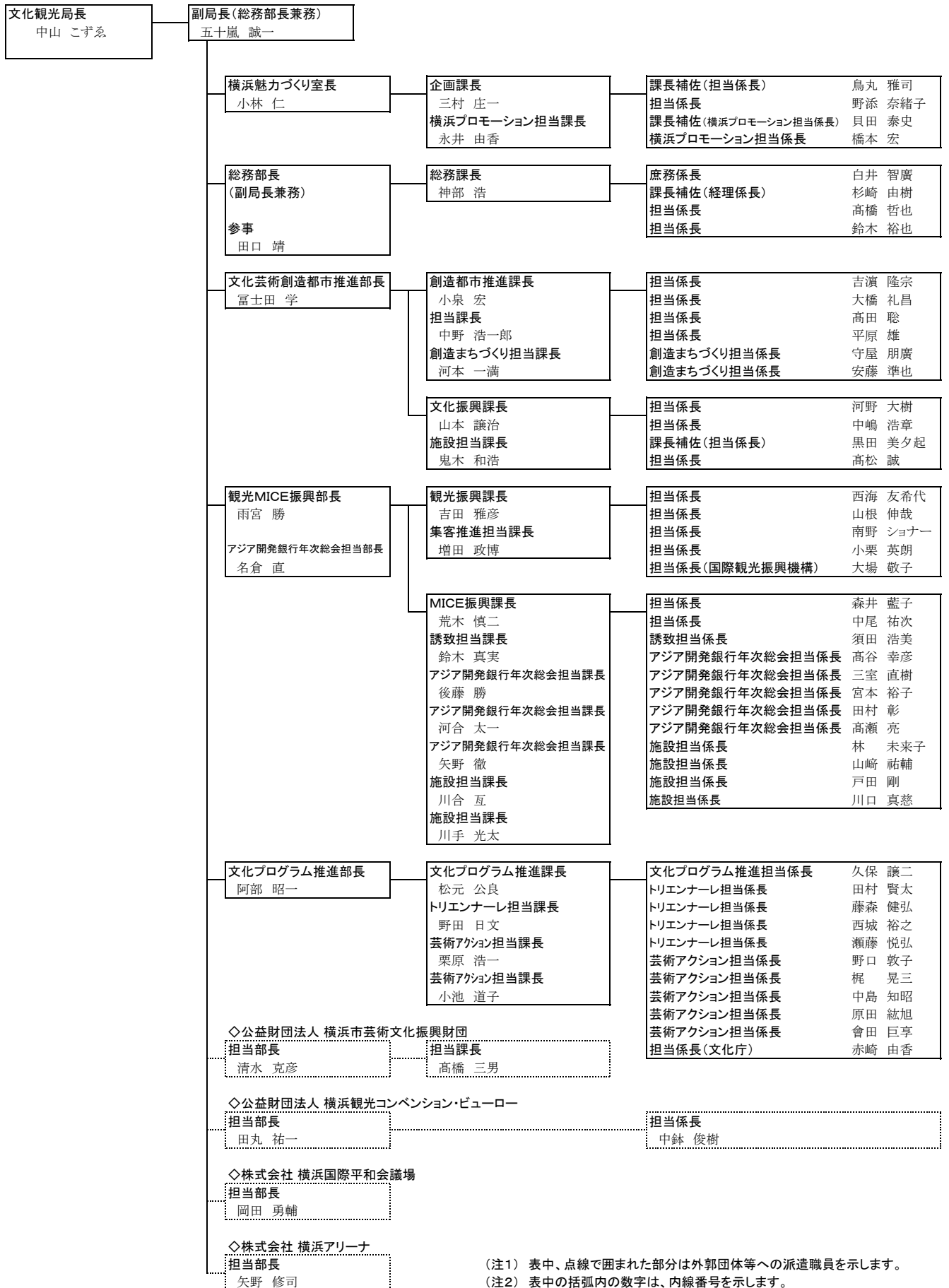
1 機構図

文化観光局 P 1

2 事務分掌

文化観光局 P 2

1 機構図



(注1) 表中、点線で囲まれた部分は外郭団体等への派遣職員を示します。
(注2) 表中の括弧内の数字は、内線番号を示します。

2 文化観光局事務分掌

横浜魅力づくり室

企画課

- 1 横浜の魅力向上に係る総合的な企画、調整及び調査研究に関すること。
- 2 局の重要施策の企画及び総合調整に関すること。
- 3 シティプロモーションに関すること。

総務部

総務課

- 1 局内の人事、文書、予算及び決算に関すること。
- 2 局内の事務事業の連絡調整に関すること。
- 3 局所管の外郭団体の総合調整に関すること。
- 4 局の危機管理に関すること。
- 5 他の室及び部の主管に属しないこと。

文化芸術創造都市推進部

創造都市推進課

- 1 創造都市の形成に係る総合的な企画、調整及び事業等の実施に関すること。
- 2 創造都市の形成に係る拠点の整備及び運営管理並びにこれらに係る企画、調査及び調整に関すること。
- 3 創造都市の形成に係るまちづくりに関すること。
- 4 部内他の課の主管に属しないこと。

文化振興課

- 1 文化施策の総合的な企画及び事業の実施に関すること。
- 2 文化芸術活動の総合的な支援に関すること。
- 3 文化施設の整備及び運営管理並びにこれらに係る企画、調査及び調整に関すること。
- 4 区役所の文化振興支援に関すること。
- 5 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団に関すること。
- 6 文化基金に関すること。
- 7 その他文化振興に関すること。

観光M I C E振興部

観光振興課

- 1 観光交流の推進及び調整に関すること。
- 2 観光関係の団体及び施設に関すること。
- 3 国内外からの観光客の集客に係る総合的な企画、調整及び事業の実施に関すること。
- 4 公益財団法人三溪園保勝会及び公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューローに関すること。
- 5 部内他の課の主管に属しないこと。

M I C E振興課

- 1 大型国際コンベンションその他のM I C Eの誘致及び開催支援に関すること。
- 2 大規模集客イベントの支援に関すること。
- 3 M I C E関係の団体及び施設に関すること。
- 4 株式会社横浜国際平和会議場及び株式会社横浜アリーナに関すること。

文化プログラム推進部

文化プログラム推進課

- 1 横浜トリエンナーレその他の文化プログラムに係る総合的な企画、調整及び事業等の実施に関すること。



平成28年度

事業概要

文化観光局

あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA

目 次

	ページ
I 平成28年度文化観光局運営方針について	3
○基本目標	
○目標達成に向けた施策	
II 平成28年度文化観光局予算について	5
○予算額の概要	
○予算編成の考え方	
◆トピックス① 「中期4か年計画」文化観光局施策の指標◆	6
III 平成28年度文化観光局主要事業	7
1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化	7
(1) シティプロモーション事業	
(2) 調査分析事業	
2 横浜の未来を担う次世代育成の推進～クリエイティブ・チルドレン～	8
(1) 芸術文化教育プログラム推進事業	
(2) クラシック・ヨコハマ推進事業	
(3) 横浜芸術アクション次世代育成事業	
(4) アーツコミッション次世代育成事業	
(5) スマートイルミネーション事業	
(6) 映像文化都市次世代育成事業	
(7) M I C E次世代育成事業	
◆トピックス② クリエイティブ・チルドレンのプログラム◆	11
3 市民の文化芸術活動の支援	12
(1) 地域文化サポート事業	
(2) 芸術文化支援事業	
(3) 関内ホール改修事業	
(4) 文化施設整備事業	
(5) 文化施設運営事業	
◆トピックス③ 市民活動への支援 ー27年度の取組からー◆	13
4 横浜らしい先進的な文化芸術・創造都市の国内外への発信	14
(1) 横浜芸術アクション事業	
(2) 横浜トリエンナーレ事業	
(3) スマートイルミネーション事業 (再掲)	
(4) 創造的ビジネス・コーディネート事業	
(5) アーツコミッション事業	

(6) 旧関東財務局保全・耐震対策事業	
(7) 創造界限活動支援事業	
◆トピックス④ 創造界限の新たな展開◆	17
5 MICE誘致・開催支援、集客増に向けた観光施策の充実	18
(1) 20街区MICE施設整備事業	
(2) アジア開発銀行年次総会横浜開催推進事業	
(3) MICE誘致・開催支援事業	
(4) 国内誘客事業	
(5) 海外誘客事業	
(6) 多文化に対応した受入・誘客事業及び多言語対応強化事業	
(7) 三溪園施設整備等支援事業	
◆トピックス⑤ 海外誘客の推進◆	21
◆トピックス⑥ 地方創生交付金を活用した観光施策◆	22
◆トピックス⑦ 国際的なMICE拠点都市・横浜◆	22
IV 平成28年度文化観光局予算総括表	23
V 予算科目別内訳	25
1 文化観光総務費	25
2 文化芸術創造都市推進費	26
3 文化プログラム推進費	29
4 観光MICE振興費	30

I 平成 28 年度 文化観光局 運営方針について

基本目標

あうたびに、あたらしい *Find Your YOKOHAMA*

～「チーム文化観光局」による「選ばれる都市 横浜」の実現～

目標達成に向けた施策

1. 「選ばれる都市 横浜」に向けて

文化観光局は、これまで「文化のかおる活力ある都市横浜、人が集い交流する賑わいのある都市横浜」の実現に向けて、データに基づいたPDCAサイクルをしっかりとまわし、事業の相乗効果を発揮しながら、様々な取組を展開してきました。

28年度は、「中期4か年計画」を引き続き着実に推進するとともに、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えた取組を進めていきます。中でも、横浜らしい音楽フェスティバル「横浜音祭り2016」の開催により、リオ大会後から全国で実施される「文化プログラム」を横浜がリードするとともに、2017年の「第50回アジア開発銀行年次総会」を様々な関係者・団体と連携し、円滑に開催できるよう準備を進めます。

横浜の持つ開放的・先駆的・創造的な要素をふまえたスローガンのもと、局発足以来5年間の取組と成果をしっかりとふまえ、“チーム横浜”の一員として、賑わいと活力あふれる「選ばれる都市 横浜」の実現に向けて、文化観光局一丸となって取り組みます。

【ブランドスローガン】

歴史あるものを大切に守りつつ、いつも新しい発見があり、感性が磨かれる感覚と、ワクワクする心の高揚が感じられる街、横浜。そんな横浜のブランドイメージを高めていくためのスローガンです。

<日本語>

<英語>

あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA

Inspire Your Soul

Find Your YOKOHAMA

【ブランドエッセンス】

横浜に来ると（住んでいると）味わえる体験や感覚の核となる要素。

こうした要素を提供できる施策を展開し、都市ブランドイメージを高めていきます。

新しい発見

磨かれる感性

ワクワクする高揚感

2. 施策を推進する5つの柱

横浜が市民の皆様にとって誇れるまち、国内・海外からも「選ばれる都市」として、持続的に発展し、都市の活性化を図るために、市民の皆様をはじめ、地域、事業者、団体、NPO など様々な皆様と連携し、施策を展開します。そのために、28年度は5つの柱を立て施策を推進します。

1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化

2 横浜の未来を担う次世代育成の推進 ~クリエイティブ・チルドレン~

3 市民の文化芸術活動の支援

4 横浜らしい先進的な文化芸術・創造都市の国内外への発信

5 MICE 誘致・開催支援、集客増に向けた観光施策の充実

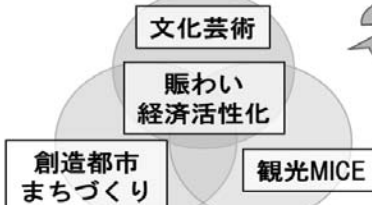
目標達成に向けた組織運営

データと PDCA サイクルによる確かな業務執行を基盤とし、3つのアップの連動によって、さらなる賑わいと経済活性化につなげます。

文化観光局は3つのアップ！

プロモーションカアップ！

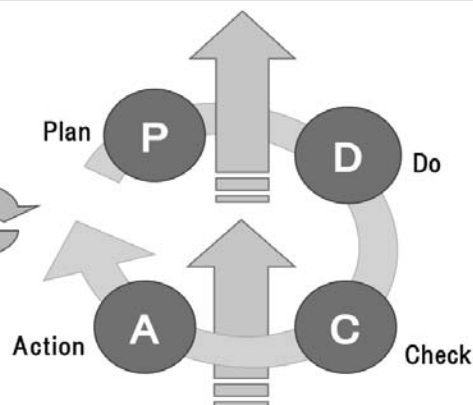
横浜の魅力アップ！



マーケティングカアップ！

データとPDCAによる
確かな業務執行

事業のさらなる発展



○文化観光局「人財」育成ビジョンにもとづいた「目指す職員の育成」

- ・ 現場主義、顧客志向、地域や企業との協働により、横浜の魅力づくりに取り組める職員
- ・ 費用対効果の意識が高く、説明責任が果たせる職員
- ・ 法令・ルール of 遵守を徹底し、公平性の意識が高い職員
- ・ 職員同士お互いを尊重し、生き生きかつ楽しく仕事をし、組織の枠を超えて連携できる職員

Ⅱ 平成 28 年度 文化観光局 予算について

予算額の概要

28 年度の文化観光局の一般会計予算額は、75 億 1,743 万円、対前年度 10 億 2,191 万円の減、12.0%の減となっています。

主な減額理由は、文化施設整備事業（戸塚区民文化センター）の減によるものです。

区 分	28 年度予算額	27 年度予算額	増 減
一般会計	75 億 1,743 万円	85 億 3,934 万円	△10 億 2,191 万円 (△12.0%)

(内訳は 23 ページの文化観光局予算総括表を御覧ください。)

予算編成の考え方

1. 「選ばれる都市 横浜」に向けた中期 4 か年計画 2014～2017 の着実な推進

27 年度は、ダンスフェスティバル「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015」の開催、2017 年第 50 回アジア開発銀行年次総会の横浜開催決定や新たな M I C E 施設整備に向けた事業着手、クリエイティブ・チルドレンや創造的産業振興など、文化芸術創造都市、観光・M I C E の取組により、都市の活力と賑わいづくりを進めました。また、観光集客実人員（3,761 万人）及び観光消費額¹（3,188 億円）は過去最高に達しています。

28 年度は、横浜の持つ開放的・先駆的・創造的な要素を踏まえたスローガン「あうたびに、あたらしい Find Your YOKOHAMA」のもと、「中期 4 か年計画」の文化芸術創造都市、観光・M I C E を柱とする各施策を着実に推進します。ラグビーワールドカップ 2019、スポーツと文化の祭典である東京 2020 オリンピック・パラリンピックという世界的スポーツイベントを見据え、横浜らしい質の高い文化芸術による発信や成長著しいアジア諸国からの集客の強化などにより「選ばれる都市 横浜」に向けて、局一丸となって取り組みます。

2. 施策を推進する 5 つの柱に基づく予算編成

施策の推進にあたっては、「中期 4 か年計画」や「横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方」を基軸として、市民活動の支援や次世代育成につながる幅広い文化芸術・創造都市施策の展開、また、国内外からのさらなる誘客促進や市内経済の活性化につながる観光・M I C E 施策の充実など、それぞれの取組を着実かつ効果的に進めていきます。

そのために、28 年度は、運営方針に掲げる 5 つの柱に沿った予算を編成しました。

¹ 28 年 4 月 28 日発表 「27 年（1～12 月）観光集客実人員及び観光消費額」

◆トピックス① 「中期4か年計画」文化観光局施策の指標◆

「横浜市中期4か年計画 2014～2017」では、都市間競争が激化する中で、人や企業から選ばれる都市となるよう、文化芸術創造都市や観光・MICEの振興、街の魅力や賑わいづくりにつながる観光誘客の促進を図っています。各指標の目標値と取組状況（26年度）は次のとおりです。

指 標	策定時	26年度	目標値(29年度末)
施策23 観光・MICEの推進			
国際会議開催件数 (UIA※1基準)	51件(25年)	49件(26年)	75件/年
外国人延べ宿泊者数	44万人(25年)	50万人(26年)	60万人/年
観光消費額	2,334億円(25年)	2,771億円(26年)	2,475億円
施策24 文化芸術創造都市による魅力・活力の創出			
横浜美術館及び横浜みなとみらい ホールの首都圏からの来訪率※2(本 市を除く県内及び東京都、埼玉県、千葉県 の平均値)	横浜美術館 14.9% (25年度) MMホール 15.6% (25年度)	横浜美術館 14.3% (26年度) MMホール 20.7% (26年度)	横浜美術館 17% MMホール 17%
芸術文化教育プログラム推進事業 学校プログラム実施回数	205回(25年度)	307回(26年度)	280回
創造限界拠点(4拠点)※3の市内 認知率	40.1%(25年度)	41.2%(26年度)	50%

※1 UIA: Union of International Associations(国際団体連合)

※2 本市調査で「これまでに施設を訪れたことがある」と回答した方の割合

※3 創造限界拠点(4拠点): YCC ヨコハマ創造都市センター、Bank ART Studio NYK、象の鼻テラス、黄金スタジオ・日ノ出スタジオ

Ⅲ 平成 28 年度 文化観光局 主要事業

1

戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化

横浜のブランド力向上や集客・賑わいづくりにつなげていくため、基礎的情報の収集・分析を踏まえ、文化芸術創造都市、観光・MICEを中心に横浜の魅力を総合的に発信するシティプロモーションを戦略的・効果的に展開します。

(1) シティプロモーション事業

8,062 万円（前年度：8,485 万円）

p. 25

横浜の魅力を表すスローガンとして、「あうたびに、あたらしい ~Find Your YOKOHAMA」を掲げ、重点的にプロモーションすべきイベント・施設を選定したうえで、ターゲットに適した広報媒体を選択しながら、年間を通じた効果的なシティプロモーションを展開します。

28 年度は、テレビやスマートフォンを通じ、映像で視覚的に魅力を伝えていく取組をより一層強化します。特に、海外については、ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 オリンピック・パラリンピックを見据え、アジアを中心としたテレビと SNS によるプロモーションを展開することで、都市の魅力の認知率やブランド力の向上につなげます。

また、プロモーションノウハウの蓄積・共有化を進めるとともに、庁内各部署からの事業プロモーションに対する相談対応を行うことで、市全体のプロモーション力アップと一貫性のあるプロモーションを進めます。



【世界トライアスロンシリーズ横浜大会】



【BSミニ番組「ワタシの横浜とりっぷ」】

(2) 調査分析事業

1,083 万円（前年度：1,275 万円）

p. 25

市内で実施されるイベントや、横浜を代表する文化・観光施設に関する認知度、訪問意欲等を把握することにより、施策立案の基礎資料として活用します。あわせて、国内外での横浜の魅力に関する調査を実施し、賑わい形成、経済の活性化、戦略的・効果的なプロモーションにつなげます。

横浜の未来を担う子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むため、学校や地域において、文化芸術や国際交流などに親しむ機会の充実や才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家の芽を育む取組を推進します。

鑑賞、体験、社会活動などライフステージに応じた次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）を幅広く展開し、文化芸術創造都市、観光・MICE都市として、ブランドの確立につなげます。

(1) 芸術文化教育プログラム推進事業

3,394万円（前年度:3,394万円）

p. 27

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽や美術、ダンス、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。28年度は、261回（27 予算 261 回）実施します。

NPO 団体、市内文化施設等が、教師とアーティストのコーディネートを担当することで効果的なプログラムを提供します。また、プログラムの質を高めるため、コーディネーターが相互にノウハウを交換しあう会議や、教師のためのワークショップを開催するなど本事業を支える人材を育成します。

26 年度実施校アンケートから

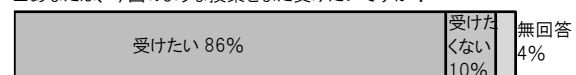
児童・生徒向けアンケート

■あなたにとって、この授業でためになったことはありますか？



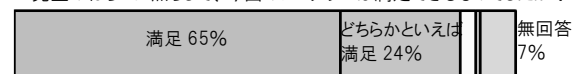
児童・生徒向けアンケート

■あなたは、今回のような授業をまた受けたいですか？



教員向けアンケート

■先生のねらいに照らして、今回のプログラムは満足できるものでしたか？



※アンケート集計数:10,442人、134校中128校
小学3年生以上対象、複数学年での取組は任意の1学年で実施

どちらかといえば
不満足・不満足 4%



【市立西寺尾第二小学校/音楽/オペラ】



【市立東小学校/音楽/クラシック】



【市立釜利谷小学校/演劇/創作】

(2) クラシック・ヨコハマ推進事業

900 万円（前年度：850 万円）

拡充

p. 27

国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供するとともに、市民の皆様身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、ミュージアムやサロン、福祉施設等市内各地の様々な会場でクラシックコンサートを実施します。また、横浜みなとみらいホールで実施される国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会」において、出場者の中から公募市民による聴衆賞「横浜市民賞」を選びます。

28 年度は、クラシック・ヨコハマ推進事業を開始して 10 年目、全国大会が第 70 回となる節目の年にあたります。全国大会では「ピアノ・バイオリン・声楽・フルート」部門に加え、「チェロ」部門が創設されます。

これを契機に横浜市民賞に同部門を新設するほか、プロモーションを強化します。



【ミュージアムコンサート in そごう美術館】

(3) 横浜芸術アクション次世代育成事業（横浜芸術アクション事業の一部）

6,500 万円（前年度：5,210 万円）

拡充

p. 29

本物の優れた音楽に触れる機会を子どもたちに提供する催しや、プロとの共演が経験できる企画、また、障害の有無に関わらず楽しめる参加型の企画等、文化芸術を通して、子どもたちの創造性や感性を育む次世代育成事業を継続して実施します。

【主な事業】

・ 横浜 18 区 ショートフィルム&コンサート

実施日：9 月～11 月

場 所：区の文化施設

内 容：区の文化施設等でコンサートを開催。また、
プロの音楽家と次世代を担う子どもたちが触れ合う機会を提供します。



【横浜音祭り 2013「神奈川フィル学校出張コンサート」】

・ 横浜市消防音楽隊による中学校吹奏楽部ワークショップ&演奏会

実施日：6 月～11 月

場 所：公会堂

内 容：横浜市消防音楽隊によるワークショップを各区の中学校のブラスバンドを対象に実施し、消防音楽隊と共に演奏会も実施します。

・ 横浜音祭り パラ・ミュージック「ミュージック・イン・ザ・ダーク～障がいとアーツ in 横浜」

実施日：11 月 3 日

場 所：フィリアホール（青葉区民文化センター）

内 容：障害の有無に関わらず子どもから大人まで楽しめるコンサートを実施します。

(4) アーツコミッション次世代育成事業 (アーツコミッション事業の一部)

拡充

750万円 (前年度 : 550万円) p. 26

アーティストの育成支援として、キャリア形成につながる活動計画に基づいた支援を行い、将来、国内外で活躍できる人材の創出を目指します。

また、若手アーティスト・クリエイターがスタジオや事務所等を開設する際の支援を行い、次世代の育成に重点を置いた創造界隈への一層の集積や、まちの活性化を図ります。

(5) スマートイルミネーション事業

拡充

1,800万円 (前年度 : 1,540万円) p. 27

横浜都心臨海部を舞台に、LED 照明や太陽光発電などの省エネルギー技術とアートの創造性を融合させ、新たな夜景の演出を試みるイベント「スマートイルミネーション横浜」を実施し、都市としての魅力アップを図ります。

若手アーティストや学生らの作品を募集、展示する「スマートイルミネーション・アワード」は、27年度から個人・グループ部門に加え、学校部門を新設しました。28年度も環境共生型の照明技術の新たな活用に繋がる、自由な発想による作品を発表する機会としています。

(6) 映像文化都市次世代育成事業 (映像文化都市づくり推進事業の一部)

2,005万円 (前年度 : 2,005万円) p. 26

本市が誘致した東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用して、幼児から小学生までを対象とした映像ワークショップを区役所と連携しながら実施するほか、東京藝術大学教授が講師を務める、小中高生を対象とした映像鑑賞教育 (こどものためのシアター) を実施します。

また、民間企業と連携してハンドメイド・アニメーション・グランプリ横浜賞を設け、次世代の若手映像クリエイターを支援します。



【クリスマス・アニメーション・ワークショップ (青葉区内)】

(7) MICE次世代育成事業 (MICE誘致・開催支援事業の一部)

300万円 (前年度 : 300万円) p. 31

国際会議や展示会等の開催に伴い、国内外から多くの研究者や、情報が市内に集まります。その機会を活用し、市内の子どもたちを対象に次世代育成事業を実施します。国際的に活躍する研究者との交流や、学校では体験できない特別な実習などを通し、次世代を担う若者が最先端の技術や情報に接する機会を創出します。



【水素エネルギーを活用した実験】

◆トピックス② クリエイティブ・チルドレンのプログラム ◆

子どもたちの豊かな感性や創造性を育む文化芸術体験、新進アーティストの発掘・育成・支援、MICEを活用した世界最先端の技術や情報に触れるきっかけづくりなど、クリエイティブ・チルドレンのプログラムを紹介します。(27年度の主な事業)

◆子どもたちの豊かな感性や創造性を育む文化芸術体験 【子どものアトリエ 親子のフリーゾーン】〈小学生以下〉

横浜美術館では、子どもたちが“描いたりつくったり”することで、自らやってみたいという意欲を育むことを目的にさまざまな造形や鑑賞プログラムを実施しています。

「親子のフリーゾーン」(月に3回程度の開催)は500名*を超える多くの親子が参加する人気プログラムで26年継続しています。

*付き添いの大人も含む



【子どものアトリエ (横浜美術館)】

◆MICEを活用した世界最先端に触れる特別講座 【スーパードクターが語る！】〈高校生～大学生〉

国際会議等の機会をとらえて、市内の子どもたちが世界で活躍する研究者から楽しく学べる専門性の高い講座を開催しています。

27年度は7回開催し、参加者からは、「活躍する先生の強い思いを聞いて医師・研究者になりたいという意思が強まった」「将来の夢のイメージをつかめた」などの声上がり大好評でした。



【スーパードクターが語る！
世界最先端がん放射線治療の今】

◆新進アーティストの発掘・育成・支援 【OPEN STUDIO 2015】〈若手アーティスト〉

創造限界拠点の1つ「BankART Studio NYK」では、アーティストが滞在し創作活動をしています。

「OPEN STUDIO 2015」では、6月の10日間、49組が制作風景を一般公開し、相互に交流を深めるとともに、来場者とも触れ合う場となりました。

参加アーティストの一部は引き続き横浜にスタジオを構えるなど、アーティストの集積にも寄与しています。



【OPEN STUDIO 2015】

市民の皆様やNPO等が主体となつて行う文化芸術活動を支援し、様々な文化芸術活動を鑑賞、創作、体験、発表できる機会の充実を図り、市内全域で市民の皆様が活動しやすい環境づくりを進めます。

また、文化芸術活動の拠点施設を整備・運営し、文化芸術を身近に親しむ機会の提供や様々な情報・魅力を発信します。

(1) 地域文化サポート事業

3,000万円（前年度：3,000万円） p.27

地域課題の解決につなげる文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援します。

また、採択団体等のサポートのため、まちづくり等様々な分野と文化芸術の関わりについて意見交換を行う研修や、事業紹介のための広報誌（季刊「ヨコハマアートサイト」）の発行、団体相互のネットワークづくりのための交流会などを実施します。



【保土ヶ谷こども歌舞伎】

(2) 芸術文化支援事業

3,090万円（前年度：3,090万円） p.28

市民の皆様が様々な文化芸術活動を鑑賞、体験、発表できる機会の充実を目指し、市に拠点のある文化芸術団体が行う、横浜の文化振興の基盤を担う活動を支援します。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団のコンサートや、市庁舎や市内各地で演奏会を開いている横浜市民広間演奏会、市内最大の美術公募展などの活動を支援します。

(3) 関内ホール改修事業

6,542万円（前年度：－） p.28

新規

関内ホールは、横浜の都心部に位置する1,000席規模のホールとして、演劇、音楽、集会、講演会など多目的に利用されていますが、開館後30年が経過し、老朽化が進んでいます。

当事業は、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図るとともに、利用者の安全を確保するためにホールの天井脱落対策も合わせて行います。28年度はこれらの工事の実施設計を行います。

なお、休館を伴う工事は29年11月中旬から30年9月下旬を予定しています。



【関内ホール】

(4) 文化施設整備事業

1 億 7,699 万円(前年度:12 億 8,748 万円) p. 28

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、個性豊かな文化芸術活動を活発に行うことができる環境整備のため、地域特性等に応じて文化施設を整備します。

ア 区民文化センター整備

- ・港北区：内装基本設計 1,700 万円（新綱島駅前地区第一種市街地再開発事業の中での整備に向けて、内装の基本設計）
- ・瀬谷区：内装実施設計 3,000 万円（瀬谷駅南口第1地区第一種市街地再開発事業の中での整備に向けて、内装の実実施設計）
- ・戸塚区：維持管理運営費 1 億 2,699 万円（戸塚駅西口に 25 年 8 月開館済み。24 年度から 27 年度まで施設整備費支払、28 年度以降は維持管理運営費のみ支払）

イ センター北（都筑区）文化施設用地活用

- ・活用検討調査 300 万円

(5) 文化施設運営事業

拡充

28 億 1,726 万円(前年度:26 億 7,024 万円) p. 28

横浜美術館や横浜みなとみらいホール等の専門文化施設の運営を通じて、国内外から注目されるような質の高い展覧会やコンサート等を実施し、横浜の魅力を発信するとともに、大倉山記念館や長浜ホール等を含め、計 15 の文化施設を運営することで、市民の皆様が文化芸術に親しむことができる機会を提供します。

また、これらの施設や区民文化センターのポテンシャルを十分に発揮できるよう、安全かつ適切に維持管理するため、舞台設備等の計画的な修繕・更新を行うとともに、横浜美術館の電気設備更新や安全対策等の改修工事を実施します。

◆トピックス③ 市民活動への支援 -27 年度取組から-

5,000 人を超える市民ダンサーが参加。「横浜ダンスパレード」を初開催！

ダンスフェスティバル「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015」（ダンス ダンス ダンス アット ヨコハマ ニマルイチゴ）のオープニングイベントとして「横浜ダンスパレード」を初開催しました。8 月 1 日、2 日の 2 日間、5,000 人を超える市民ダンサーが横浜の“街”を舞台に日頃の練習の成果を披露しました。

【横浜ダンスパレード開催概要】

実施日：平成 27 年 8 月 1 日・2 日

場所：市内 15 会場 19 ステージ

出演者数：5,888 人（350 団体）

※2 日間延人数

来場者数：約 12 万人



【市民ダンサーの演舞】

横浜らしい特色ある文化芸術の発信と国際交流の展開により、アジアを中心とした世界からアーティストが集まる文化芸術のハブ都市を目指します。

また、歴史的建造物など横浜ならではの地域資源を創造活動の場として活用するとともに、アーティスト・クリエイターなど創造的な人材の一層の集積と企業・地域との協働を推進し、創造性を生かしたまちづくり、産業振興などにより、創造都市横浜の発信力を強化します。

(1) 横浜芸術アクション事業

3億5,300万円（前年度：5億1,556万円）

p. 29

市民参加・次世代育成・賑わいづくりを柱として横浜らしい音楽フェスティバル「横浜音祭り2016」を開催し、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて2016年秋から全国で展開される文化プログラムをけん引します。

ア トップアーティスト事業

【主な事業】

・オープニングコンサート 玉置浩二プレミアム・シンフォニック・コンサート

実施日：9月22日

場 所：横浜みなとみらいホール

内 容：実力派ポップスシンガー玉置浩二と、オーケストラが共演するコンサートを実施します。



【横浜音祭り 2013「プロムナード・コンサート」】

・クロージングコンサート パーヴォ・ヤルヴィ指揮 ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 ヴァイオリン：樫本大進

実施日：11月27日

場 所：横浜みなとみらいホール

内 容：世界的に活躍している指揮者パーヴォ・ヤルヴィ氏指揮、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団による公演。海外で活躍中のバイオリニスト樫本大進氏との共演で、フェスティバルのフィナーレを飾ります。



【横浜音祭り 2013 クロージング企画「歌劇 フィデリオ」】

・青島広志 Presents 「オーケストラ・バレエ」～踊りと語り楽しむバレエ音楽コンサート

実施日：10月29日

場 所：横浜みなとみらいホール

内 容：バレエ音楽や楽器、物語等について解説とトークを交えた、バレエとオーケストラによる公演を実施します。



【Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015「瀕死の白鳥」】

イ 市民参加及び横浜の街を舞台とした事業

【主な事業】

・ヨコオト・ライブ 2016

実施日：9月24日・25日

場 所：関内ホール

内 容：公募により選ばれた音楽グループが、本格仕様のステージで熱いパフォーマンスを披露します。



【横浜音祭り 2013「ヨコオト・ライブ」】

・街に広がる音プロジェクト

実施日：9月～11月

場 所：公園、駅前広場、商業・観光施設等

内 容：来街者で賑わうスペースで、市民や学生が演奏する街角ライブを実施します。

ウ 子どもたちの豊かな創造性を育むための次世代育成事業

P9（3） 横浜芸術アクション次世代育成事業 参照

(2) 横浜トリエンナーレ事業

8,150万円（前年度：6,600万円）

拡充

p. 29

我が国を代表する現代アートの国際展である「横浜トリエンナーレ」の第6回展開催（2017年予定）に向けて、出展作家や会場の調整等のほか、市民や地域と協働したまちの盛り上げの創出のための準備を着実に進めます。

ヨコハマトリエンナーレ 2014 展示風景



【やなぎみわ《演劇公演「日輪の翼」のための移動舞台車》2014
撮影：田中雄一郎
写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会】

ヨコハマトリエンナーレ 2011 展示風景



【ウーゴ・ロンディノーネ《月の出、東》2005
協力：the artist and Galerie Eva Presenhuber, Zürich
©the artist
撮影：木奥恵三
写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会】

(3) スマートイルミネーション事業【再掲】

拡充

1,800万円（前年度：1,540万円） p.27

横浜都心臨海部を舞台に、LED照明や太陽光発電などの省エネルギー技術とアートの創造性を融合させ、新たな夜景の演出を試みるイベント「スマートイルミネーション横浜」を実施し、都市としての魅力アップを図ります。

28年度は、都心臨海部で展開する内容を充実するとともに、郊外区でも展開します。



【スマートイルミネーション横浜 2015
撮影：アマノスタジオ】



【スマートイルミネーションみどり
撮影：伊原 正浩】

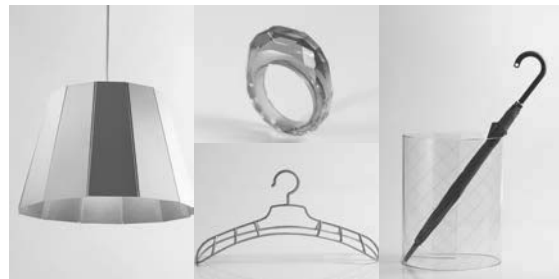
(4) 創造的ビジネス・コーディネート事業

拡充

3,000万円（前年度：2,680万円） p.26

創造都市施策で市内に集積したアーティスト・クリエイターと、高い技術力と意欲を有する市内中小企業等との協働をコーディネートし、ビジネスに新しい付加価値を生み出していくため、クリエイティブとビジネス双方に精通した「コーディネートチーム」を配置し、創造的産業の振興を進めます。

交流イベント・セミナーの開催や相談窓口の設置により、クリエイター・企業のマッチングを促進させるとともに、コーディネートチーム・専門家による商品開発支援や販路開拓機会を提供します。



【市内中小企業とクリエイターとのコラボレーションにより生まれた製品】

(5) アーツコミッション事業

6,070万円（前年度：6,440万円） p.26

アーティスト・クリエイター・企業等に対するワンストップ相談窓口の設置、若手アーティストの育成、創造性を生かして横浜の新たな魅力を発信する活動に対する支援、及びスタジオ・事務所等開設に対する支援を行い、創造界隈への一層の人材集積とまちの活性化を図ります。

Webサイト「創造都市横浜」やSNS等を活用し、創造都市の様々な取組や集積しているアーティスト・クリエイター情報を市内外へ効果的に発信することで、創造界隈拠点の認知率向上を目指します。

(6) 旧関東財務局保全・耐震対策事業

3億5,848万円(前年度:5億8,669万円) p. 27

創造産業の集積を推進し、賑わいの創出及び経済の活性化につなげる中核施設として活用するため、市指定有形文化財である旧関東財務局の耐震補強及び改修工事を行います。

28年度は、引き続き工事を進めるとともに、公募により事業予定者として決定した株式会社横浜 DeNA ベイスターズと、「スポーツ×クリエイティブ」をテーマとした事業計画協議を進め、年内の施設オープンを予定しています。



【旧関東財務局外観】

(7) 創造界隈活動支援事業

拡充

3億1,975万円(前年度:3億1,682万円) p. 26

歴史的建造物や倉庫等、都心部の地域資源を有効活用した創造界隈拠点として、YCC ヨコハマ創造都市センター（旧第一銀行横浜支店）や、BankART Studio NYK（日本郵船横浜海岸通倉庫）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラスの運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの活動を支援し地域の活性化を図ります。

違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区においては、引き続き、地元・警察・行政が一体となって、文化芸術の力を生かしたまちの再生を進めます。

また、象の鼻テラスを拠点として、29年度のヨコハマ・パラトリエンナーレ2017開催に向けた作品制作やプロモーションを展開します。

さらに、各創造界隈拠点では、若手アーティストの展覧会・公演、小中学生向けのワークショップを実施し、次世代育成にも取り組みます。

◆トピックス④ 創造界隈の新たな展開◆

YCC ヨコハマ創造都市センターは、平成 27 年 6 月 30 日に横浜の新たなクリエイティブ拠点としてオープンしました。

施設内には、カフェやシェアオフィス、工房が常設され、市民が日常的に訪れ、活動することができる場所になっています。

このほか、ワークショップやセミナーの開催、市内中小企業とクリエイターとのコラボレーションから生まれた製品のショールームの設置等、企業・市民・地域等との協働推進、創造的産業の振興、地域活性化へとつなげていく取組を行っています。



【オープニングイベントの様子
(中央作品:結び目/高橋士郎)】

経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議等をターゲットとした積極的な誘致を進めるとともに、MICEの市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要を踏まえ、東京2020オリンピック・パラリンピックに間に合うよう、MICE施設の整備を進めます。

また、国内外からの交流人口の増加による市内経済活性化を目指し、海外からの誘客を促進するため、民間事業者と連携し、多言語化など外国人旅行者に対する受入環境を強化するとともに、海外市場のニーズに合わせたプロモーションを展開します。

さらに、国内の横浜への交通アクセスが向上するエリアからの誘客を強化します。

(1) 20街区MICE施設整備事業

2,000万円（前年度：3,700万円）

p.31

MICEの市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい21中央地区20街区）で、PFIによるMICE施設の整備に向け準備を進めます。また、MICE施設の運営者を選定する手続きを実施します。

<契約の相手方>

株式会社横浜グローバルMICE

<施設概要>（予定）

MICE施設：地下1階、地上6階

多目的ホール 約7,600㎡

（ホワイエを含め約10,000㎡）

会議室 約6,500㎡

（大会議室8室、中会議室10室、小会議室12室）

民間収益施設：地上14階

一般利用ホテル 客室数 約150室

会員制ホテル 客室数 約120室

※図面は提案資料として提出されたものであり、実際の建物とは異なる場合があります。



【耐震バース上空より20街区を望む】



【国際大通りよりMICE施設を望む】



【MICE施設の1階車寄せ】



【MICE施設の4階中会議室（1室利用時）】

(2) アジア開発銀行年次総会横浜開催推進事業

拡充

3億6,500万円（前年度：1,200万円） p.31

2017年（平成29年）5月に横浜で開催する、第50回アジア開発銀行（ADB）年次総会に向け、庁外組織である横浜開催推進協議会等を通じて、財務省や神奈川県、地元の経済界・関係団体、市民ボランティア等と連携し、会議が安全・円滑に開催されるよう準備を進めます。

また、庁内組織である横浜市開催推進本部のもと、市民の理解・関心を深める様々な取組を全庁的に推進していきます。なお、2016年（平成28年）5月にフランクフルトで開催された第49回アジア開発銀行（ADB）年次総会において、次回開催都市としてPRを行いました。

◆第50回アジア開発銀行年次総会 概要

テーマ：Building Together the Prosperity of Asia（ともにひらく、アジアの未来）

・開催日程

2017年（平成29年）

5月4日（木）～7日（日）

・会場

パシフィコ横浜及び周辺ホテル

・参加者

各国財務大臣、中央銀行総裁、

民間金融機関関係者、NGO、

報道機関関係者など約3,000～5,000人



【第49回年次総会 次回開催国イベントでロゴ・テーマ発表】

(3) MICE誘致・開催支援事業

拡充

2億1,319万円（前年度：1億9,101万円）

p.31

市内事業者や地域と一体となったMICEの誘致・開催支援に関する各種施策を推進することで、MICE開催機能を強化し、横浜の特色を活かしたMICE都市の確立を目指します。

【主な事業内容】

○ MICE誘致・開催支援

経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議を中心に、誘致及び開催支援を行います。

○ 次世代育成

市内の子どもたちが最先端の技術や情報に触れられる事業を実施します。

○ MICE・観光集客等イベント支援

横浜の歴史や景観を生かした大規模集客イベントに対して、広報協力など、イベント開催に向けた支援を実施します。



【第11回ICMアジア太平洋地域会議・助産学術会議 開会式の様子】

(4) 国内誘客事業

拡充

4,860万円（前年度：3,792万円）

p. 30

航空機の路線運航状況や鉄道の延伸などを踏まえ、時宜を捉えた戦略的なプロモーションを展開します。観光関連事業者と連携した旅行代理店への直接セールスや、重点セールスエリアである北海道での商談会実施などにより、国内からの誘客を促進します。

また、横浜の有する様々な資源や強みを新たな観光資源として掘り起こし、横浜ならではのニューツーリズム(着地型観光)を推進します。



【横浜赤レンガ倉庫】

(5) 海外誘客事業

拡充

5,956万円（前年度：5,116万円）

p. 30

アジア8地域（中国、韓国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア）を主な対象市場として、各市場のニーズに応じて、現地プロモーション、ガイドマップの配布、メディア・旅行会社の招へいなどを実施します。

また、クルーズ船乗船客の横浜観光促進のため、新たな観光資源を開発し、旅行会社等に対して横浜の魅力をPRするほか、他の自治体等との連携による広域周遊ルート形成を行い、横浜への誘客を図ります。



【インドネシアからのメディア・旅行会社の招へい（カップヌードルミュージアム）】

(6) 多文化に対応した受入・誘客事業 及び多言語対応強化事業

拡充

1,400万円（前年度：1,315万円）

p. 30

今後も増加が見込まれるムスリム旅行者が、安心して滞在できるよう、SNSを活用した情報発信や市内事業者向けの接客研修の開催など、受入環境整備を行います。あわせて、マレーシア、インドネシアで横浜のPRを行うことで、横浜への誘客を図ります。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、ICT技術を活用し、市内観光関連事業者の多言語対応を促進します。



【三溪園にて抹茶を楽しむムスリム旅行者】

(7) 三溪園施設整備等支援事業

拡充

2億5,783万円（前年度：1億2,500万円）

p. 31

国の名勝に指定されている三溪園の庭園整備、文化的・歴史的価値の高い古建築（重要文化財10棟、横浜市指定文化財2棟を含む）の保全を行います。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、本市を代表する迎賓施設、観光施設として、迎賓機能の強化、多様なお客様が快適にお過ごしいただくための受入環境整備を行います。



【鶴翔閣で開催された日本文化を体験するお正月催事の様子】

◆ トピックス⑤ 海外誘客の推進 ◆

27年の訪日外客数は、円高是正の浸透などの影響により、1,973万人を超え、過去最高を記録しました。今後も更なる拡充が見込まれる海外市場ですが、横浜市がアジア6か国・地域で実施した実態調査（26、27年度）では、横浜の具体的な魅力をより発信していく必要があるということが明らかになりました。そこで、横浜の魅力を効果的に伝えるため、現地メディアや旅行博において映像を中心としたプロモーションを展開し、横浜への訪問促進を図っています。

●27年度に実施した主な事業

(1) インドネシアでの現地プロモーション

- ・横浜が舞台のドラマ「デート～恋とはどんなものかしら」と、横浜の観光スポットを紹介する短編映像を放映。
- ・ジャカルタで開催の訪日旅行フェアにブースを出展。上記短編映像を活用したステージイベントを実施。体験提案型マップ「Time Out」等を配布。



【インドネシア訪日旅行フェアでのステージイベント】

(2) タイでの現地プロモーション

- ・まち歩きを楽しむためのタイ語マップを制作。現地の旅行会社で配布。
- ・バンコクで開催の訪日旅行フェアに参加。SNSでの情報拡散を図るキャンペーン、短編映像を活用したステージイベントを実施。



【タイ訪日旅行フェア 横浜市ブース】

(3) 放送ネットワークを活用したプロモーション

- ・東南アジア各国・インドの提携メディアネットワーク（Catch Asia! Media Network）において、横浜の観光情報をニュース配信。

◆トピックス⑥ 地方創生交付金を活用した観光施策◆

国の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」を活用し、市内の観光需要喚起や観光振興につながる取組を 27 年度に実施しました。

●横浜プラチナメニュー

普段体験できない特別な時間を市内で体験してもらおう旅行商品(横浜プラチナメニュー)を民間事業者と連携して新たに造成し、特別価格で提供しました。ヘリコプター体験やクルーズツアー、中華街グルメプランなど、横浜の具体的な魅力をお伝えする約 30 メニューを 7,000 名以上の方々に購入いただきました。これをきっかけとして、多くの方が横浜を再訪していただけるような着地型観光の普及を促進します。

●羽田空港国内線ターミナルに横浜みやげのショップがオープン

横浜の地域ブランド、ヨコハマ・グッズ「横濱 001」の新たな“おみやげライン”「ヨコハマハイカラレーベル」を立ち上げました。また、27 年 10 月～28 年 2 月まで羽田空港国内線第1旅客ターミナルに「ヨコハマハイカラレーベル」を中心とした横浜みやげのショップをオープンさせ、広く横浜みやげをPRするとともに、更なるブランドの認知度の向上を図っています。



【羽田空港ショップの様子】

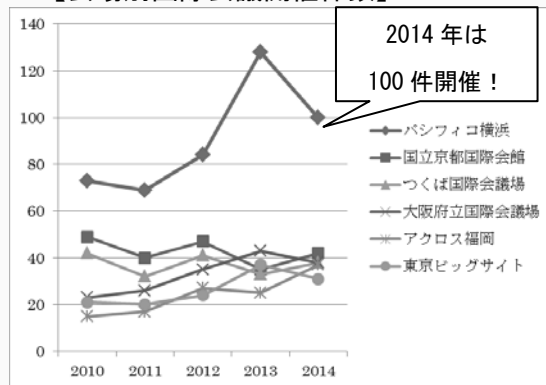
◆トピックス⑦ 国際的なMICE拠点都市・横浜◆

日本有数のMICE施設であるパシフィコ横浜では、コンベンションを始め数多くのMICEが開催され、大きな賑わいを創出しています。【会場別国際会議開催件数】

●13期連続国内1位！

パシフィコ横浜は、JNTO(日本政府観光局)コンベンション統計のコンベンション施設別国際会議総参加者数で13期連続全国1位！

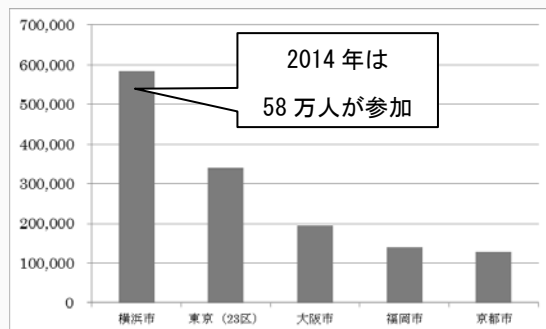
2014年は100件の国際会議が開催されました。



【都市別国際会議総参加者数】

●都市別国際会議総参加者数 58 万人 (全国1位！)

都市別国際会議総参加者数は毎年増加しており、2014年は58万人を超える方々に横浜で国際会議にご参加いただきました。



出典：日本政府観光局 国際会議統計

IV 平成28年度 文化観光局予算総括表

(単位：千円)

科 目	28年度 予算額	27年度 予算額	差 引 増△減	前年比 (%)	主 な 増 減 事 業
4款文化観光費	7,517,429	8,539,341	△ 1,021,912	△ 12.0	
1項文化観光費	7,517,429	8,539,341	△ 1,021,912	△ 12.0	
1目文化観光総務費	1,301,973	1,194,058	107,915	9.0	<ul style="list-style-type: none"> ・人件費 112,417千円増 ・フィルムコミッション事業 3,014千円増 ・シティプロモーション事業 △ 4,231千円
2目文化芸術創造都市推進費	4,071,313	5,706,758	△ 1,635,445	△ 28.7	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設運営事業 147,020千円増 ・関内ホール改修事業 65,421千円増 ・文化施設整備事業 △ 1,110,482千円 ・映像文化施設移転事業 △ 330,000千円
3目文化プログラム推進費	454,134	597,761	△ 143,627	△ 24.0	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレ事業 15,500千円増 ・文化プログラム推進事業 7,600千円増 ・横浜芸術アクション事業 △ 162,564千円
4目観光MICE振興費	1,690,009	1,040,764	649,245	62.4	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア開発銀行年次総会横浜開催推進事業 353,000千円増 ・減債基金積立金 299,536千円増 ・三溪園施設整備等支援事業 132,829千円増

IV 予算科目別内訳

1 項 1 目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市 債	その他	一般財源
1 文化観光 総務費	千円 1,301,973	千円 1,194,058	千円 107,915	千円 —	千円 —	千円 83	千円 1,301,890

横浜魅力づくり室

(1) シティプロモーション事業 **80,619千円** (前年度 84,850千円)

横浜の魅力を表すスローガンとして、「あうたびに、あたらしい ~Find Your YOKOHAMA」を掲げ、重点的にプロモーションすべきイベント・施設を選定したうえで、ターゲットに適した広報媒体を選択しながら、年間を通じた効果的なシティプロモーションを展開します。

28年度は、テレビやスマートフォンを通じ、映像で視覚的に魅力を伝えていく取組をより一層強化します。特に、海外については、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、アジアを中心としたテレビとSNSによるプロモーションを展開することで、都市の魅力の認知やブランド力の向上につなげます。

(2) 調査分析事業 **10,834千円** (前年度 12,746千円)

市内で実施されるイベントや、横浜を代表する文化・観光施設に関する認知度、訪問意欲等を把握することにより、施策立案の基礎資料として活用します。あわせて、国内外での横浜の魅力に関する調査を実施し、賑わい形成、経済の活性化、プロモーションを戦略的・効果的に実施することにつなげます。

(3) フィルムコミッション事業 **13,154千円** (前年度 10,140千円)

横浜のシティセールス・プロモーション等に寄与する映像作品や観光客誘致に効果のある映像作品のロケ支援を行います。

(4) 開港記念式典開催事業 **4,680千円** (前年度 4,680千円)

開港記念日（6月2日）に市民や市政関係者ととともに開港を祝い、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表するため、開港記念式典を開催します。

総務部

(5) 総務費 **17,264千円** (前年度 18,637千円)

文化観光局職員の人材育成事業などを実施します。

(6) 人件費 **1,175,422千円** (前年度 1,063,005千円)

文化観光局職員の人件費を計上します。

1 項 2 目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市 債	その他	一般財源
2 文 化 芸 術 創 造 都 市 推 進 費	千円 4,071,313	千円 5,706,758	千円 Δ1,635,445	千円 120,003	千円 333,000	千円 62,960	千円 3,555,350

文化芸術創造都市推進部

(1) 創造界限活動支援事業

319,752千円 (前年度 316,815千円)

歴史的建造物や倉庫等、都心部の地域資源を有効活用した創造界限拠点として、YCC ヨコハマ創造都市センター（旧第一銀行横浜支店）や、BankART Studio NYK（日本郵船横浜海岸通倉庫）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラスの運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの活動を支援し地域の活性化を図ります。

違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区においては、引き続き、地元・警察・行政が一体となって、文化芸術の力を生かしたまちの再生を進めます。

また、象の鼻テラスを拠点として、29年度のヨコハマ・パトリエンナーレ2017開催に向けた作品制作やプロモーションを展開します。

さらに、各創造界限拠点では、若手アーティストの展覧会・公演、小中学生向けのワークショップを実施し、次世代育成にも取り組みます。

(2) アーツコミッション事業

60,700千円 (前年度 64,400千円)

アーティスト・クリエイター・企業等に対するワンストップ相談窓口の設置、若手アーティストの育成、創造性をいかして社会課題に取り組む活動に対する支援及びスタジオ・事務所等開設に対する支援を行い、創造界限への一層の人材集積とまちの活性化を図ります。

Webサイト「創造都市横浜」やSNS等を活用し、創造都市の様々な取組や集積しているアーティスト・クリエイター情報を市内外へ効果的に発信することで、創造界限拠点の認知率向上を目指します。

(3) 創造的ビジネス・コーディネート事業

30,000千円 (前年度 26,800千円)

創造都市施策で市内に集積したアーティスト・クリエイターと、高い技術力と意欲を有する市内中小企業等との協働をコーディネートし、ビジネスに新しい付加価値を生み出していくため、クリエイティブとビジネス双方に精通した「コーディネートチーム」を配置し、創造的産業の振興を進めます。

(4) 映像文化都市づくり推進事業

29,060千円 (前年度 28,137千円)

東京藝術大学大学院映像研究科の高度な映像表現知識・技術を活用しながら、地域貢献・次世代育成の取組を実施するほか、民間企業と連携して「ハンドメイド・アニメーション・グランプリ横浜賞」を設け、次世代の若手映像クリエイターを支援します。また、同大学が校舎として使用する映像文化施設の維持管理を行います。

(5) 創造都市国際交流事業

3,200千円 (前年度 16,300千円)

創造都市の取組を推進する地方自治体間の連携・交流を図る「創造都市ネットワーク日本 (CCNJ)」と連携し、創造都市に関する情報・知見を共有する都市間ネットワークを形成するとともに、創造界限拠点において培った国際ネットワークを活用した交流を図ります。

(6) 創造都市市民連携事業 **6,666千円** (前年度 9,241千円)

約400名の市民ボランティアスタッフが運営に参加する「横濱JAZZ PROMENADE」や、日本大通りを中心に開催する同時コンサート「ホッチポッチ・ミュージックフェスティバル」など、多くの市民の皆様が参加するイベントの開催を引き続き支援するとともに、まちの賑わいや来街者の回遊性を創出します。

(7) スマートイルミネーション事業 **18,000千円** (前年度 15,400千円)

横浜都心臨海部を舞台に、LED照明や太陽光発電などの省エネルギー技術とアートの創造性を融合させ、新たな夜景の演出を試みるイベント「スマートイルミネーション横浜」を実施し、都市としての魅力アップを図ります。28年度は、都心臨海部で展開する内容を充実するとともに、引き続き郊外区でも展開します。

(8) 旧関東財務局保全・耐震対策事業 **358,479千円** (前年度 586,687千円)

創造産業の集積を推進し、賑わいの創出及び経済の活性化につなげる中核施設として活用するため、市指定有形文化財である旧関東財務局の耐震補強及び改修工事を行います。28年度は、引き続き工事を進めるとともに、公募により事業予定者として決定した株式会社横浜DeNAベイスターズと、「スポーツ×クリエイティブ」をテーマとした事業計画協議を進め、年内の施設オープンを予定しています。

(9) 創造都市推進事業 **8,125千円** (前年度 9,570千円)

創造都市の実現に向けた国内外に対する広報費や事務経費等

(10) 芸術文化教育プログラム推進事業 **33,940千円** (前年度 33,940千円)

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽や美術、ダンス、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。28年度は、261回（27予算261回）実施します。

(11) 地域文化サポート事業 **30,000千円** (前年度 30,000千円)

地域課題の解決につなげる文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援します。

また、採択団体等のサポートのため、まちづくり等様々な分野と文化芸術の関わりについて意見交換を行う研修や、事業紹介のための広報誌（季刊「ヨコハマアートサイト」）の発行、団体相互のネットワークづくりのための交流会などを実施します。

(12) クラシック・ヨコハマ推進事業 **9,000千円** (前年度 8,500千円)

国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供するとともに、市民の皆様身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、ミュージアムやサロン、福祉施設等市内各地の様々な会場でクラシックコンサートを実施します。また、横浜みなとみらいホールで実施される国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会」において、出場者の中から公募市民による聴衆賞「横浜市民賞」を選びます。

(13) 芸術文化支援事業 **30,900千円** (前年度 30,900千円)

市民の皆様が様々な文化芸術活動を鑑賞、体験、発表できる機会の充実を目指し、市に拠点のある文化芸術団体が行う、横浜の文化振興の基盤を担う活動を支援します。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団のコンサートや、市庁舎や市内各地で演奏会を開いている横浜市民広間演奏会、市内最大の美術公募展などの活動を支援します。

(14) 文化施設運営事業 **2,817,258千円** (前年度 2,670,238千円)

横浜美術館、横浜みなとみらいホール等の文化施設の運営及び舞台設備等の計画的な修繕・更新等を行います。

○ 横浜美術館運営費	759,971千円
○ 横浜みなとみらいホール運営費	486,521千円
○ 横浜能楽堂運営費	182,893千円
○ 横浜にぎわい座運営費	209,704千円
○ 関内ホール等文化施設運営費	793,715千円
○ 市民利用施設予約システム運営費等	384,454千円

(15) 関内ホール改修事業 **65,421千円** (前年度—)

開館後30年が経過し、老朽化が進んでいるため、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図るとともに、利用者の安全を確保するためにホールの天井脱落対策を併せて行います。28年度はこれらの工事の実設計計を行います。なお、休館を伴う工事は29年11月中旬から30年9月下旬を予定しています。

(16) 文化施設整備事業 **176,993千円** (前年度 144,493千円)

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、個性豊かな文化芸術活動を活発に行うことができる環境整備のため、身近な拠点となる区民文化センターを、各区の地域特性等に応じて整備します。28年度は、瀬谷区で内装の実設計計を行い、港北区で内装の基本設計を行います。

○ 区民文化センター整備	
港北区 (内装基本設計費)	17,000千円
瀬谷区 (内装実設計計費)	30,000千円
戸塚区 (維持管理運営費)	126,993千円
○ センター北 (都筑区) 文化施設用地活用	3,000千円

(17) その他の文化振興事業 **62,569千円** (前年度 129,855千円)

横浜文化賞の贈呈、美術資料収集等のほか、文化施設が設置されている複合施設の修繕費を負担します。

(18) 芸術文化振興財団補助金 **11,250千円** (前年度 12,500千円)

公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団の事業への補助を行います。

【終了事業】

(文化施設整備費のうち、戸塚区民文化センター整備費)	(前年度 1,142,982千円)
(映像文化施設移転事業)	(前年度 330,000千円)
(新港ふ頭展示施設解体事業)	(前年度 100,000千円)

1項3目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
3 文化プログラム推進費	千円 454,134	千円 597,761	千円 △143,627	千円 104,300	千円 —	千円 9,000	千円 340,834

文化プログラム推進部

(1) 横浜芸術アクション事業 **353,000千円** (前年度 515,564千円)

市民参加・次世代育成・賑わいづくりを柱として横浜らしい音楽フェスティバル「横浜音祭り2016」を開催し、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて2016年秋から全国で展開される文化プログラムをけん引します。

ア トップアーティスト事業

- ・オープニングコンサート
- ・パーヴォ・ヤルヴィ指揮 ドイツカンマーフィルハーモニー管弦楽団
(クロージングコンサート)

イ 市民参加及び横浜の街を舞台とした事業

- ・ヨコオト・ライブ
- ・街に広がる音プロジェクト

ウ 子ども達の豊かな創造性を育むための次世代育成事業

- ・YOKOHAMA ショートショート・コンサート
- ・横浜音祭り パラミュージック

(2) 横浜トリエンナーレ事業 **81,500千円** (前年度 66,000千円)

我が国を代表する現代アートの国際展である「横浜トリエンナーレ」の第6回展開催(2017年予定)に向けて、出展作家や会場の調整等のほか、市民や地域と協働したまちの盛り上がりの創出のための準備を着実に進めます。

(3) 日中韓都市間交流事業 **12,034千円** (前年度 16,197千円)

26年11月に締結した「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づき、アーティストや芸術団体等の相互派遣を通じて、中国泉州市及び韓国光州広域市との交流を引き続き行っていきます。

また、東アジア文化都市開催都市が増えていく中での、ネットワーク構築に向けて検討を進めます。

(4) 文化プログラム推進事業 **7,600千円** (前年度—)

東京2020オリンピック・パラリンピックの文化プログラムについて、実施初年度となる28年度は、市民や企業・NPO団体等への周知活動を実施します。

4	1項4目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
					国・県	市債	その他	一般財源
	観光MICE振興費	千円 1,690,009	千円 1,040,764	千円 649,245	千円 —	千円 —	千円 1,248,429	千円 441,580

観光MICE振興部

1 国内外からの誘客促進

117,154千円

(前年度 98,074千円)

国内では、修学旅行誘致や着地型観光の推進に取り組みます。また、海外では、アジア8地域（インドネシア、中国、韓国、香港、台湾、タイ、シンガポール、マレーシア）を対象として、各市場に即した誘客事業を実施します。また、近年急増しているムスリム旅行者の受入環境の向上を引き続き図ります。さらに、国内外からの誘客に向け、民間事業者等と連携し、海外市場のニーズに合わせた、効果的なプロモーションを展開します。

(1) 国内誘客事業

48,598千円

(前年度 37,917千円)

- 修学旅行誘致等国内セールス
- 着地型観光の推進

(2) 海外誘客事業

59,556千円

(前年度 51,157千円)

- 現地プロモーション
- 現地訪問セールス及びメディア・旅行会社招へい等

(3) 多文化に対応した受入・誘客事業

9,000千円

(前年度 9,000千円)

- 東南アジアでの横浜観光プロモーション
- ムスリム旅行者の受入環境向上

2 観光客の受入環境整備の推進

428,374千円

(前年度 312,689千円)

観光案内所の運営や国内外からの観光客の受入環境の向上に取り組むほか、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、多言語対応を引き続き強化します。また、三溪園など観光施設整備の支援を行います。

(1) 横浜おもてなし事業

58,659千円

(前年度 91,219千円)

- 観光案内所の運営などによる来訪者支援
- 国内外からの観光客の受入環境向上及び研修の開催等による市内事業者支援

(2) 観光・MICE情報発信事業

43,897千円

(前年度 39,212千円)

- webサイトやSNSを活用した観光・MICEの最新情報の発信

(3) 多言語対応強化事業

5,000千円

(前年度 4,150千円)

- 市内施設多言語表記ガイドラインの作成
- 観光関連事業者向け外国人観光客受入対応研修の開催

(4) 三溪園施設整備等支援事業 257,829千円 (前年度 125,000千円)
 ○ 名勝庭園の維持、重要文化財等の歴史的建造物整備・保全の支援

(5) ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援事業 3,825千円 (前年度 4,500千円)
 ○ 認定商品の商談会等の開催や販路拡大の支援

(6) 観光施設維持管理事業等 59,164千円 (前年度 48,608千円)
 ○ 所管観光施設の管理運営の支援
 ○ 観光動向に関する調査

3 MICE誘致・開催支援 1,124,481千円 (前年度 452,668千円)

中大型国際会議を軸としたMICE全般の誘致・開催支援や、「横浜ならではの」の集客イベントへの開催支援に継続して取り組みます。また、2017年に横浜で開催される、第50回アジア開発銀行年次総会の開催準備を進めます。

(1) MICE誘致・開催支援事業 213,187千円 (前年度 191,010千円)
 ○ MICE誘致・開催支援
 ○ MICEを活用した次世代育成事業
 ○ MICE・観光集客等イベント支援 等

(2) 大型国際会議等誘致・支援事業 6,100千円 (前年度 9,000千円)
 大型国際会議の誘致及び開催支援を行うことにより、国際的なMICE都市の実現を図ります。

(3) アジア開発銀行年次総会横浜開催推進事業 365,000千円 (前年度 12,000千円)
 2017年(平成29年)5月に横浜で開催する、第50回アジア開発銀行年次総会に向け、会議が安全・円滑に開催されるよう準備を進めるとともに、市民の理解・関心を深める取組を推進していきます。

(4) 減債基金積立金 540,194千円 (前年度 240,658千円)
 ㈱横浜国際平和会議場貸付金の元金償還額及び利子償還額を減債基金に積み立てます。

4 20街区MICE施設整備事業 20,000千円 (前年度 37,000千円)

MICEの市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地(みなとみらい21中央地区20街区)で、PFIによるMICE施設の整備に向け準備を進めます。また、MICE施設の運営者を選定する手続きを実施します。

【終了事業】

(三溪園環境整備事業) (前年度 100,000千円)
 (企業連携観光プロモーション事業) (前年度 37,333千円)
 (クルーズ乗船客観光促進事業) (前年度 3,000千円)

・株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を変更。

（28年度変更後額：6,180,000千円（27年度設定額：4,300,000千円））

（変更後の期間：28年4月～40年3月まで）

1 団体の概要

<事業目的>

国際・国内会議及び学術等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催する。

<設 立>

昭和62年6月3日

<基 本 金>

7,565,000千円（うち、横浜市出資額：4,100,000千円 出資割合：24.4%）

2 団体の経営状況：平成26年度決算

- ・営業収益 8,060,438千円
- ・営業費用 6,811,847千円
- ・営業利益 1,248,590千円
- ・当期純利益 470,318千円（13期連続黒字決算）

3 損失補償を行う特別な理由・必要性

大規模改修工事着手に際し、パシフィコ横浜のあり方検討を行った結果、改修工事はパシフィコが金融機関から借入を行って実施し、市は必要な支援を行うことを意思決定している。

4 対象債務の返済の見通しとその確実性

- ・担保余力 20,973,977千円

国際・国内会議及び学術等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催事業の収益により、12年間で返済する。



YOKOHAMA
OTOMATSURI
横浜音祭り